



※シンボルマークは、津波をはじめとする自然災害から子供を守る大人を表現しています。

私たちは、東日本大震災を忘れない！

第7回

東北みらい創りサマースクール

(同時開催) 第7回東北みらい賞表彰式

URL: https://www.abc.co.jp/event/summer_school/

2018年9月29日(土) ▶ 30日(日)

会場 遠野みらい創りカレッジ
(旧遠野市立土淵中学校)

東北みらい賞について

当実行委員会は、発災当初より被災3県(岩手・宮城・福島)の被災地に根差して復興活動をされ、顕著な実績を上げている個人・団体の中から、防災・教育・メディア・文化の4分野でこれまで18人(団体)を顕彰してまいりました。東日本大震災のような大規模災害における復興活動は、長期間にわたり地域に根差して継続的に行う必要があります。それぞれの地域に根差した活動を実践する人々を支えていくことが人材育成の観点からも極めて重要であると考えています。

ただ今、自薦・推薦募集中です。詳しくは、HPをご覧ください。

本サマースクールは、2011年3月11日に発生した『東日本大震災』の教訓を後世の世代に伝えること、また被災した地域の復興支援と地域創生に携わる人材育成を目標に、大学・メディア・一般企業などの有志からなる「東北みらい創り実行委員会」を組織し、毎年夏に開催しております。

サマースクールでは、多彩な分野から研究成果の発表や報告、また防災啓蒙のワークショップ、被災者のメンタルケアセミナーなどを実施開催してまいりました。

被災から7年が経過し、生業や生活圏の創生。また少子高齢化と人口減少への対応など、生活面で喫緊の課題が山積しています。復興は、まだ道半ば。被災地域の発展を担う人材を育成すべく、今回は学生の皆さんを対象にした講座も多数開催いたします。

私たちは、これからも末永く情報発信を継続してまいり所存です。つきましては、是非サマースクールへお気軽にご参加ください。



9月29日(土)

8:30~9:20

9:30~10:20

10:30~12:00

10:30~12:00

13:00~14:25

13:00~14:25

14:30~16:00

14:30~16:00

9月30日(日)

10:00~12:00

「東北みらい賞」表彰式の模様をWEBでLIVE配信します。

9月30日(日) 10:00~(予定)

IBC岩手放送ホームページにて。
www.abc.co.jp

※詳細はホームページをご覧ください。

(時間等変更になる場合がございます。)

「災害時の炊き出し訓練
～サイバール飯にチャレンジ～」

講師：有馬 尊久(一社 遠野みらい創りカレッジマネージャー)

「緊急時判断ゲーム『クロスロード』ワークショップ
及び避難所体験」

講師：有馬 尊久(一社 遠野みらい創りカレッジマネージャー)

「命を守る防災メディアリテラシー
～災害・防災情報発信の現場から～」

講師：相原 優一(IBC岩手放送クロスメディア部長)

「震災復興のための政策効果をゲームで学ぶ」

講師：後藤 祐介(岩手県立大学 准教授)

「飛躍的な事業拡大を実現した地場企業の経営戦略
～宮古の水産加工業者の事例を中心に～」

講師：植田 真弘(岩手県立大学 特認教授)

「大災害から学ぶこと」

講師：越野 修三(岩手大学 客員教授)

「さらなる長期被災地メンタルヘルス支援に向けて
～ICTを活用した支援団体間の連携協働～」

講師：鈴木 満(認定NPO法人 心のかけ橋いわて代表理事)

「動物と共に生きる
～人と動物の共生を目指した支援活動～」

講師：山崎 弥生(岩手大学 被災動物支援班 特認研究員)

「第7回東北みらい賞」表彰式

審査発表・表彰状授与

審査講評(審査委員長)

受賞者活動報告

入場無料

+

大駐車場完備

【主催】東北みらい創りサマースクール実行委員会

※実行委員会は、地元大学・メディア・企業・団体の有志により構成されています。

【協力】岩手大学、岩手県立大学、岩手日報社、IBC岩手放送、遠野市、遠野みらい創りカレッジ、認定NPO法人 心のかけ橋いわて、ユー・アイ・コミュニケーションズ

【協賛】富士ゼロックス、麒麟ビール株式会社岩手支社、スマイルとうほくプロジェクト

【後援】岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、遠野市教育委員会、滝沢市教育委員会、(予定) テレビ岩手、岩手めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、朝日新聞盛岡総局、毎日新聞盛岡支局、読売新聞東京本社盛岡支局、盛岡タイムス

東北みらい創りサマースクール実行委員会

【事務局】〒020-8551 盛岡市上田4丁目3-5 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構内
電話:019-621-6491 FAX:019-621-6493

きっと役に立つ！
そんなサマースクールです。どなたでも参加できます。お気軽にお越し下さい。

第7回 東北みらい創りサマースクール

第1日目プログラム **9月29日** 土

午前の部 8:30～12:00

時間／8:30～9:20

災害時の炊き出し訓練 ～サバイバル飯にチャレンジ～

会場／遠野みらい創りカレッジ屋外

(雨天時は、屋根があるピロティで実施。)



有馬 尊久(一般社団法人 遠野みらい創りカレッジマネージャー)
アルミ缶2つと牛乳パックで1人前の米を炊く「サバイバル飯」にチャレンジしてもらいます。

これまで東北みらい創りサマースクールで行っていた炊飯は、薪で火を起こして、そのかまどの上にアルミ缶を乗せ米を炊いていました。

しかし、いざという時の実践力を上げるために、より難易度の高い牛乳パックを燃料とした炊飯に挑戦します。

かまどに乗せる場合と違い、すべて自分で行うため、達成感がさらに上がります。

遠野高校の生徒約30名に参加いただく予定。また地域の方々へも参加を呼びかけます。

時間／9:30～10:20

緊急時判断ゲーム「クロスロード」 ワークショップ及び避難所体験

有馬 尊久(一般社団法人 遠野みらい創りカレッジマネージャー)

会場／多目的ホール(踊り場)

緊急時にあなたは、どう判断するか?ゲームをとおして、緊急時の行動、心の動きなどを実感してもらい、実際の緊急時に、冷静な判断ができるようにトレーニングします。

大人からこどもまで楽しめ、そして大人にとっては目からうろこが落ちるワークショップとなっています。

高校生、大学生、社会人、行政の方、など、広く多くの方に参加していただきたいWSです。

※避難所での過ごし方も併せて体験できます。

時間／10:30～12:00

命を守る防災メディアリテラシー ～災害・防災情報発信の現場から～

会場／教室(2B)



相原 優一(IBC岩手放送クロスメディア部長)

東日本大震災以降、災害を伝えるメディアの在り方が大きく見直しを迫られている。特にインターネット・スマホの普及で、災害時に「伝えられる情報」や「伝えるべき情報」の質、あるいはその伝達手段が問われるようになってきた。熊本地震・大阪北部地震・西日本豪雨など、大災害が相次ぐ中で、災害情報をめぐる市民とメディアとのコミュニケーションは、どう変わろうとしているのか。東日本大震災をきっかけに、災害時のメディア対応を実践してきたローカル局の「現場」から、最新情報を報告する。

時間／10:30～12:00

震災復興のための政策効果をゲームで学ぶ

会場／教室(2A)



後藤 裕介(岩手県立大学ソフトウェア情報学部 准教授)

人工知能の考え方を応用したコンピュータ・シミュレーションを使って、復興支援策の効果を予測します。キャッシュ・フロー・ワークと呼ばれる経済支援政策の効果に関して、ゲーム形式の演習を通じて参加者の皆さんと一緒に考えていきます。参加者のかたはコンピュータを使いません。地域経済の視点での復興に関してご関心をお持ちの方はぜひご参加ください。

会場：遠野みらい創りカレッジ(旧遠野市立土淵中学校)

※都合により会場や開催時間に変更となる場合がございます。当日会場にてご確認ください。

午後の部 13:00～16:00

時間／13:00～14:25

飛躍的な事業拡大を実現した地場企業の経営戦略 ～宮古の水産加工業者の事例を中心に～

会場／教室(2B)



植田 眞弘

(岩手県立大学研究地域連携本部 特認教授)

東日本大震災津波で工場の建物・機械設備が流出し、生産・販売の中断によって販路等の大部分を失った沿岸の水産加工業者が、精力的な経営努力を通じて大震災前の水準を凌駕するまで事業の拡大を成し遂げた経緯を紹介し、中小規模の地場企業の競争力強化の可能性について経営学の視点から考えていく。

時間／13:00～14:25

大災害から学ぶこと

会場／教室(2A)



越野 修三(岩手大学地域防災研究センター 客員教授)

1995年に発生した阪神淡路大震災では、6000人以上の人が亡くなった。当時は、神戸では地震は起こらないという神話があり、事前準備がほとんどできていなかった。

7年前に発生した東日本大震災でも6000人近くの人が亡くなったが、なぜ多くの人が津波の犠牲になったのだろうか。

2つの大災害を教訓として、地震や豪雨災害などから命を守るためには、どのようなことに気をつけ、行動したら良いのだろうかを考える。

時間／14:30～16:00

さらなる長期被災地メンタルヘルス支援に向けて ～ICTを活用した支援団体間の連携協働～

会場／みらい創りホール(音楽室)



鈴木 満(外務省診療所メンタルヘルス・コンサルタント、
岩手医大非常勤講師、認定NPO法人 心の
かけ橋いわて代表理事)

第5回スクールでの多職種連携、第6回スクールでの遠隔医療に関するシンポジウムでも取り上げた通り 被災地におけるメンタルヘルス支援は、現地需要の変容、技術革新、法制度改正等によりその形を変えてきた。今回は、被災地でのメンタルヘルスケアを長期にわたり継続している支援団体と共にこれまでの連携の課題を振り返り、ICT専門家の助言を得て未来の連携協働のあり方について議論する。

時間／14:30～16:00

動物と共に生きる ～人と動物の共生を目指した支援活動～

会場／教室(2A)



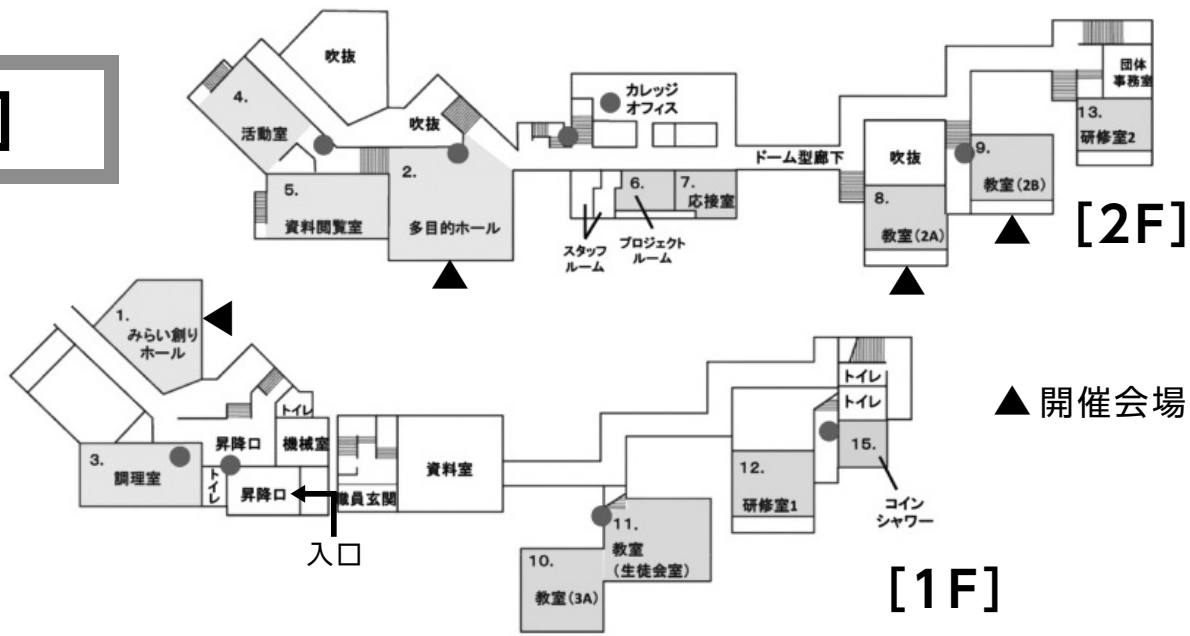
山崎 弥生(岩手大学三陸復興・地域創世推進機構
被災動物支援班 特認研究員)

東日本大震災では、ペットや家畜動物など多くの動物たちが命を落としました。現在、災害救助法の改正に向け内閣府が取りまとめているが、動物の救助について盛り込まれる予定はありません。そのため動物救護活動は各自治体の行政、地域の獣医師、そして飼い主の自助によるところ

が大きく、円滑に活動するためには協働することが重要です。本講演では、災害時動物救護における獣医師の役割についてご紹介し、また家族である動物と共に生き抜くために必要なことを皆さんと一緒に考えたいと思います。

会場見取図

● 消化器設置場所



▲ 開催会場

[1F]

[2F]